

博士客員研究員 小沼剛 第51回 NMR 討論会若手ポスター賞受賞

(平成24年11月9日)

小沼剛博士客員研究員が、2012年11月8日～10日に「ウイנקあいち」において行われた第51回 NMR 討論会で、以下に示したポスター発表を行い、『若手ポスター賞』を受賞し、受賞講演を行いました。

本『若手ポスター賞』は、日本核磁気共鳴学会の若手研究者支援活動の一環として次世代を担う若手研究者をエンカレッジするために、年度ごとの NMR 討論会でエントリーされたポスター発表の中から優れた発表に贈呈される賞で、大学や公的機関の若手を対象とした『若手ポスター賞 I』と企業で NMR を開発する若手を対象とした『若手ポスター賞 II』が設けられています。今年度は合わせて45名のエントリーがあり、本学会評議員が以下の5つの項目に対して高い評価を与えた10名の受賞者に小沼博士客員研究員が選ばれ、『若手ポスター賞 II』を受賞しました。

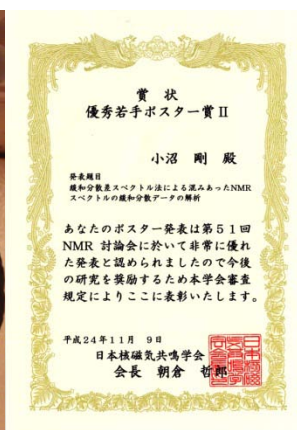
- (1) 高いオリジナリティーを有する優れた学術的研究である。
- (2) ポスターや要旨が論理的に明解に作成されており、分かり易い内容である。
- (3) 分かり易い優れた発表を行うとともに、質問に対して答えが的確である。
- (4) 企業で行った研究が主体となっている。
- (5) 研究成果が広く会員に有益であり、評価される内容である。

<発表タイトル>

緩和分散差スペクトル法による混みあった NMR スペクトルの緩和分散データの解析

<要旨>

緩和分散法は、タンパク質のダイナミクスを解明するための最も強力な NMR 測定法の一つである。しかし分子量の大きなタンパク質や天然変性タンパク質は NMR シグナルがしばしば重なり正確にその強度を定量化できないため、緩和分散法の適用は困難とされてきた。そこで本研究において、混みあった NMR スペクトルから緩和分散を示すシグナルのみを残す緩和分散差スペクトル法 (relaxation dispersion difference; RDD) と呼ぶ新しい解析法を開発し、上記の問題点を解決した。



平成24年11月9日

日本核磁気共鳴学会
会長 朝倉 哲郎